

広報プラザの建設寄附—国立大学初の情報発信専用施設として—

豊田講堂の南側にある2階建ての建物、広報プラザが名古屋大学出版会の寄附によって建設されたのは、ちょうど30年前の1993(平成5)年のことです。

名古屋大学出版会(以下、出版会)は、名大をはじめ中部地方の各大学の研究成果の出版事業等を行う一般財団法人です。名大の組織ではありませんが、1982(昭和57)年に名大の教官が中心となって設立され、法人化後は会長を名大総長、理事長を名大教授が務めています。

1985年には募金活動による資金を基盤に財団法人となった出版会ですが、旧古川図書館(現博物館)内の一角を利用していた事務所の狭隘化が深刻な問題になっていました。出版会と名大の間で、豊田講堂内や南部食堂内、プラズマ研究所跡地などへの様々な移転案が浮上しては消えていきました。

1992年4月、浅井淳平出版会理事長が加藤延夫新総長と西尾理弘事務局長を訪問して事務所問題の解決を懇請

した結果、両人ともこれに大いに理解を示したことが転機になりました。その後、出版会による寄附で情報発信施設を新築し、その中に事務所を設ける構想が急速に具体化し、翌年2月に竹中工務店により着工、7月に「名古屋大学広報プラザ」として竣工しました。

出版会の事務所は1階に置かれました。そして2階には、名大の教育研究の成果や活動状況等を発信する「名古屋大学情報資料広報室」、全国の大学進学情報を総合的に提供する「大学入試センター名古屋進学情報サービス室」が設置されるなど、広報プラザは日本の国立大学では初めての情報発信専用施設でした。

インターネット普及前のこの時期、政府の審議会の答申などをうけて、情報の公開や情報化のための諸改革、社会との協力連携の推進が大学に求められていました。広報プラザの建設もこれを背景としています。

[参考文献:『名古屋大学出版会二十年誌』]



- 1993年9月13日、シンポジオンで完成記念式典・祝賀会が行われ、約250人が出席した。写真はテープカットの様子。左から西尾事務局長、金森文部省大学入試室長、加藤総長、高橋大学入試センター所長、浅井理事長。
- 竣工当時の広報プラザ。
- 竣工直後、備品が何も置かれていない状態の2階。現在の2階は、全学同窓会ラウンジと記者会見会場になっている。
- 当初の名古屋大学情報資料広報室の様子。同室は、「大学刊行物コーナー」、「研究情報コーナー」、「生涯学習情報コーナー」からなっていた。
- 当初の大学入試センター名古屋進学情報サービス室の様子。全国の大学の情報検索や紹介ビデオの視聴などができた。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

(学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…)

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

(各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…)

■ 校費による印刷物・刊行物

(冊子、パンフレット、ポスター…)

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp